

現代目次

第四篇 現代

第一章 村の政治……………3

第一節 政治の移り変わり……………3

一 明治維新から市町村制公布までの武石郷……………3

二 武石村の成立……………8

三 明治時代の村治……………10

四 大正時代の村治……………15

五 昭和戦前の村治……………23

六 昭和戦後の村治……………28

武石村の農地改革……………29

県営ほ場整備五カ年の歩み……………50

ライスセンター完成……………51

七 武石村の人口の推移……………55

就業人口について	57
高齢化人口について	57

第二章 治安と消防

第一節 兵事と治安

一 明治の富国強兵のみち	59
1 徴兵令が実施され兵役の義務が課せられる	59
2 日清戦争が起こる	60
3 日露戦争	62
二 大正デモクラシーの道	70
三 太平洋戦争への道——終戦	75
1 満州事変	75
2 満蒙開拓青少年義勇軍	77
3 支那事変	77
4 戦時の思い出の歌に残る隣組	78
5 太平洋戦争（大東亜戦争）	81
6 戦局の転換	82
7 終戦	85
四 平和への道（民主主義）	87

1	日本国憲法の公布	87
2	武石村における終戦	89
3	自衛隊の成立	90
	明治・大正・昭和の武石村戦死戦病死軍人名簿	91
第二節 消防		
一 消防の移り変わり		
1	私設消防組	103
2	消防組織組織の確立	103
3	災害	105
二 大正時代		
1	関東大震災起こる	106
2	消防組の統一	106
3	災害	107
三 昭和初期		
1	災害	108
2	警防団の成立	109
四 戦後		
1	警防団から消防団へ	110
2	長野刑務所看守殺害逃走犯人逮捕	111

3	災害	112
五	消防の近代化	114
1	武石分署の発足	114
2	村の救急体制について	115
3	武石村の防災体制	117
4	武石村消防団竿頭綬を受賞	120
5	婦人消防隊の発足	121
6	余里の山火事	123
	武石村消防団本部及び副分団長名簿	125
	第三章 保健と衛生、厚生福祉	127
	第一節 衛生保健の諸施策	127
一	衛生行政（明治から戦前まで）	127
	戦後の保健衛生について	129
二	明治・大正・昭和の村民の死亡原因などの考察	132
1	明治・大正年代の村民の健康	132
2	昭和年代の村民の健康	134
3	昭和年代死亡原因のまとめ	138
三	高齢化時代の健康問題	139

1	明治と大正と昭和年代の病気の変遷	139
2	予防接種・各種検診・健康教育	140
3	ゆりかごから墓場まで	141
四	武石村の医事年表と医家	143
1	医事年表	143
2	医家	148
第二節	上水道の推移	152
一	井戸と用水・湧水・私設水道	152
二	上水道の布設と水源の増設	154
1	唐沢水源地の増設	155
2	水の需要量	160
第三節	社会福祉	162
一	福祉行政	162
1	戦前までの社会福祉	162
2	戦後の社会福祉	163
3	武石村授産所について	164
4	武石村母子健康センターについて	165
5	中央保育園について	166
6	老人福祉センターについて	167

7	武石村社会福祉協議会	168
	第四節 国保と年金	171
一	組合立国保から村営国保へ	171
二	国保運営の推移	172
	一部の負担金の窓口徴収について	173
三	国民年金	178
四	農業者年金について	181
	第四章 交通と通信	185
	第一節 交通	185
一	道路	185
1	明治・大正時代	185
2	昭和の道	189
3	武石村の道路を分類しますと	189
4	今後の武石村の道路について	191
二	運輸	191
	第二節 通信	199
一	郵便局	199

二 報 道	202
1 有線放送	202
2 テレビ	204
3 ラジオ	205
4 新聞	205
5 「武石時報」から「広報武石」までの発刊について	206
第三節 照 明	208
一 はじめに	208
二 ランプ以前	208
三 ランプ	209
四 ガス灯	211
五 電 灯	211
六 むすび	214
第五章 産業と経済	215
第一節 農 業	215
一 明治から昭和初期の農業	215
1 明治の農政と農業	215
2 大正の農業	217

3	昭和初期の農業	219
二	戦中、戦後の農政と農業	222
1	戦中の農業	222
2	戦後の農政	224
3	戦後農業の発展と現況	228
三	農業経営の多様化と技術の進歩	232
1	稲作の変遷	232
2	麦・大豆作の変遷	238
3	畜産の変遷	239
4	薬用人参の発達	244
5	トマト栽培	246
6	その他の野菜	248
7	花きの栽培	248
8	果樹栽培	249
9	きこの栽培の変遷	251
四	肥料と農薬の変遷	252
1	有機質時代	252
2	購入肥料増進時代	253
3	肥料統制時代	253
4	技術革新以後の肥料の変遷	254

5 農業使用の推移……………254

第二節 林 業……………256

一 武石村山林の概要……………256

二 山林区分の沿革……………257

1 官有林野払下請願(明治三十三年三月)……………257

2 山林統一(大正五年～六年)……………261

三 明治・大正年代の林業……………263

1 明治時代……………263

2 大正年代……………265

3 昭和年代……………268

第三節 商 工 業……………280

一 明治から昭和初期までの商業……………280

1 共進社(依田元社)……………282

二 商店街の形成(明治後期から昭和初年)……………284

1 武石社……………289

三 太平洋戦争前後……………291

四 商工業の発展……………298

五	変わる商業	303
第四節	戦後の産業と村民の暮らし	308
一	戦後の日本経済の変化と私どもの村	308
二	戦後武石村の経済・社会の変化	309
1	学生村	310
2	別荘開発のあげぼ	311
3	とが(二位)の木を育てよう	314
4	昭和六三年ごろの村民の生活	316
第五節	農業団体と金融	324
一	あらまし	324
二	武石村農会	326
1	概況	326
2	武石村農会の設立・組織・運営について	327
3	農会の事業の概要について	327
三	産業組合	335
1	おこり	335
2	産業組合の統合	338
3	大正から昭和初期の組合事業	340
四	農業会	349

五	農業協同組合	352
1	農協法の制定	352
2	発足	353
3	主な事業経過	357
六	養蚕農業協同組合	378
1	組合設立と事業概況	378
2	産蚕・繭価の推移	380
3	合併	382
七	西武開拓農業協同組合	382
1	発足	382
2	営農状況	383
八	その他農業団体	385
1	農業共済組合	385
2	農業委員会	391
九	武石農業改良事務所と普及事業	393
1	概況	393
2	組織と運営	394
3	発足当初の普及活動と重点目標	394
4	水稻地域別施肥基準の設定	395

5	主要作物の展示圃設置	395
6	公報と普及活動	398
7	長野県稲熱病防除指定村となる	398
8	昭和二八年の大凶作	398
9	農家・農村の生活改善	400
10	農村青少年クラブ（四日クラブ）の育成と活動	402
十	その他の金融	404
1	武石永安株式会社	404
第六節 観光		
一	はじめに	409
1	武石八景	410
2	三將軍の来遊	410
3	岳の湯	411
4	美ヶ原	412
5	武石公園	412
二 観光開発		
1	美ヶ原観光道路の整備	414
2	別荘の開発	417
3	観光の主な施設	425

第六章 教育と文化

第一節 学校教育

一 明治の教育

- 1 二校で始まった学校教育……………437
 - 2 統合分離をくりかえす学校……………438
 - 3 学校の基礎が固まった……………439
 - 4 そのころの学校……………441
 - 5 教育の方向が定まっていく……………442
 - 6 武石長窪高等小学校……………444
 - 7 教育が進展していく……………447
 - 8 学校教育の基礎を築いた人々……………449
- #### 二 大正の教育
- 1 教育の範囲が広がった……………451
 - 2 教育の内容が多彩になった……………452
- #### 三 昭和の教育 I
- 1 不況と戦争の影の下で……………455
 - 2 青年学校の発足……………459
 - 3 戦時下の教育……………460

四	昭和の教育 II	463
1	終戦直後の教育	463
2	新教育制度がはじまる	463
3	小学校のあゆみ	464
4	中学校の誕生	468
5	依田窪南部中学校	469
6	丸子実業高等学校武石分校	474
	第二節 社会教育	478
一	戦前の団体活動	478
1	武石倶楽部	478
2	報徳社の活動	480
3	青年夜学会	481
4	青年会と処女会	482
5	婦人会	484
6	少年会	485
7	戦時下の団体	485
	二 戦後の社会教育	486
1	戦後社会教育の発端	486
2	生涯教育	487
3	武石村で開設された教室・学級などの一例(五五年度・五六年度)	488

4	同和教育	497
5	文化講演会	503
6	ふるさとへの伝言	504
7	婦人会活動	504
8	青年団活動	511
9	社会教育施設	522
三	社会教育年表	525
第三節	スポーツ	539
一	明治・大正時代	539
二	昭和の時代	541
1	第二次世界大戦終結まで	541
2	戦後から昭和の終わりまで	544
3	平成の時代へ	560
第四節	文化	564
一	文学	564
1	俳句	564
2	短歌	566
3	小説	569
4	生活記録	569

二 學術書	569
三 美術	572
1 書道	572
2 絵画	573
3 彫刻・工芸	574
4 陶芸	575
四 演劇「歌舞伎しばい」	575
五 公民館による文化活動	576
第七章 宗教	579
第一節 概説	579
一 明治初期前後の宗教	579
二 戦時統制下の宗教	580
三 国家神道(神社神道)	582
第二節 神道	583
一 現代の神道	583
二 神道と村人とのかわり	585
三 郷社延喜式内子檀嶺神社	586

四	旧下武石村社大宮諏訪神社	590
五	旧沖村社諏方社	593
六	旧余里村社駒形神社	594
七	旧上本入村社貴船神社	595
附	旧下本入村神社小宮分布図	597
	熊野権現信仰について	598
八	旧武石村十二の宮	599
九	旧鳥屋村社熊野宮	600
十	旧上本入村社熊野神社	601
十一	旧村社外神社	603
1	白山神社	603
2	一心様	604
3	稲荷神社	605
附	その他	606
第三節 仏教		
一	真言宗智山派 武石山妙見寺	610
1	本尊 大日如来	610
2	開宗	611
3	教義	611

二 曹洞宗 武石山信廣寺	612
1 本尊 釈迦牟尼如来	612
2 開宗	613
3 宗義	613
三 浄土宗 光明山正念寺	614
1 本尊 阿弥陀如来	614
2 開宗	614
3 教義	615
附 その他	616
第四節 その他の宗教	617
一 キリスト教	617
二 創価学会	617
三 天理教	618
四 その他の活動	619
1 依田窪仏教会	619
2 社会事業	620
あとがき	621
執筆委員	622
協力者	623